

「血中 β -D-グルカン値が上昇するクリプトコッカス症の臨床的解析」

○研究の概要

クリプトコッカス症 (Cryptococcosis) は、Cryptococcus neoformansまたはC. gattiで汚染された土壌を吸入することで罹患する肺または播種性感染症です。診断は、培養（髄液、血液、喀痰、尿）や抗原検査（血清や髄液）の結果をもとに行われます。 β -D-グルカンは深在性真菌症（接合菌症を除く）の補助診断法として、我が国で広く用いられております。従来、クリプトコッカス症では血中 β -グルカン値が上昇しないとされていましたが血中 β -D-グルカン値が上昇するクリプトコッカス症（主に真菌血症）の症例が報告されています。今回の研究は、当院で診療したクリプトコッカス症の中で血中 β -グルカン値が上昇した症例の臨床的特徴を見いだすことです。

○研究の目的と方法

今回の研究の目的は、当院における血中 β -D-グルカン値が上昇するクリプトコッカス症の臨床的特徴を明らかにすることです。本研究では、2013年1月1日～2024年10月31日に国立病院機構熊本医療センターを受診された患者さんのうち、①クリプトコッカス抗原陽性（血液、髄液）、②培養検査（喀痰、血液、髄液のいずれか）でCryptococcus neoformansまたはC. gattiが検出された方を対象としています。研究対象症例数は、10～20名です。日常診療で得られたデータ（年齢、性別、身体所見、検査内容、検査値、最終診断、治療状況、転帰）を電子カルテから集計いたします。

○本研究の参加について

これにより、患者さんに新たな検査や費用の負担が生じることはありません。また、研究で扱う情報は、個人が特定されない形で厳重に扱います。ご自身のデータを本研究に使わないでほしいと希望されている方、その他研究に関してご質問がございました際は、末尾の問い合わせまでご連絡ください。

○調査する内容

本研究は、新たに試料・情報を取得することではなく、既存カルテ情報のみを用いて実施する研究です。研究対象者（患者さん）の個人情報（氏名、住所、電話番号、カルテ番号など）は、記載せず、対応表を作成して管理しますので、個人情報は特定されません。

○調査期間

調査対象期間：2013年1月1日～2024年10月31日

研究実施期間：倫理委員会承認後～2026年3月31日

○研究成果の発表

調査した患者さんのデータは、集団として分析し、学会や学術論文で発表いたします。また、個々の患者さんのデータを発表するときも、個人が特定されることはありません。

○研究代表者

国立病院機構熊本医療センター 総合診療科 辻隆宏

○当院における研究責任者

国立病院機構熊本医療センター 総合診療科 辻隆宏

○問い合わせ先

国立病院機構熊本医療センター 総合診療科 辻隆宏 電話：096-353-6501